

石川県能登島ガラス美術館だより

Notojima Glass Art Museum : NEWSLETTER

発行/令和5年3月31日

第29号

- 目次
- 1 能登島ガラスコレクション 作品紹介
 - 2 令和4年度展覧会報告
 - 3 主な普及活動報告
 - 4 令和4年度 ガラ美の足あと/作品修復報告/令和5年度の活動によせて/新収蔵品紹介
 - 5 これからの展覧会(令和5年度事業予定)/石川県七尾美術館で開催される令和5年度の主な展覧会
 - 6 施設修繕報告/ガラ美のおすすめ利用サービス/建築家・毛綱毅曠氏の著書紹介/美術館インフォメーション

能登島ガラスコレクション 作品紹介



オニニカナボウ/磯谷晴弘/1993年

「'93日本のガラス展」に出品された本作は、「鬼に金棒」のことわざに着想を得、日本固有の武器である金棒を宙吹きで形作りしました。黒色ガラスに黄色い斑点をちらし、透明のイボが溶着されています。恐れ嫌われるという、一般的な鬼のイメージを取り払い、この金棒の持ち主は争いを好まない優しい鬼ではないかと想像を膨らませ、作品に悲しみと美しさを封じ込めています。言い伝えや伝説など物語性のある作品をシリーズとして制作していた作家38歳の作です。

晩年、バーナーワークで制作を始めた作家が手掛けた「飾り玉」シリーズの大作、4点の内の1つです。没年である2008年(86歳)の作であり、「'08日本のガラス展」に出品され、同展図録では「古代、極東のひとびとが憧れた中近東の舞姫たちの衣装をイメージして制作」と語っています。作家を代表する鮮やかな色ガラスに金箔をあしらひ、遠く離れた異国の地でたくましく舞う踊り子を表現しています。令和4年度に支持体の補強、ピロードの張替え、玉のつなぎ直しの修復を行いました。



胡の舞姫の首飾り/岩田糸子/2008年

令和4年度展覧会報告



巡回展

日本ガラス工芸協会 創立50年記念 「'21日本のガラス展」

会期／前期 令和4年3月12日(土)～5月29日(日) 後期 令和4年6月4日(土)～8月28日(日)
開館日数／159日間 入館者数／22,310人
主催／石川県能登島ガラス美術館(公益財団法人七尾美術財団)、日本ガラス工芸協会

日本ガラス工芸協会(1972年発足)が3年毎に開催してきた「日本のガラス展」は、本展で15回目を迎えました。今回は、協会創立50年を記念した「ガラスアートの実験たち」展を同時開催。巡回館である当館では、会員へのインタビュー動画を製作、展示室内で上映し、真摯に制作に取り組み、独自の造形表現を追求する作家達の姿をご覧いただきました。



◆会期中の関連イベント

パート・ド・ヴェールに挑戦!

開催日時／令和4年7月30日(土)、31日(日) 各日11:00～15:00
講師／西 悦子 氏(本展出品作家)
参加費／3,000円 参加者数／15人

ガラス粒や粉をのりと混ぜたり、ガラスを型に詰めたり、西先生にひとつひとつ手順を教えていただきながら、パート・ド・ヴェール技法に挑戦しました。

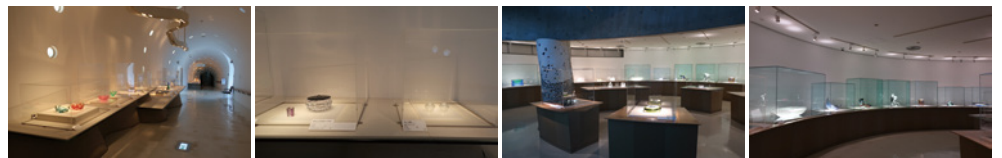


テーマ展

カッタガラス展 同時開催:生々流転

会期／令和4年9月3日(土)～11月6日(日)
開館日数／63日間 入館者数／9,328人
主催／石川県能登島ガラス美術館(公益財団法人七尾美術財団)

ガラスの伝統的な装飾のひとつであるカッタ技法をテーマに、ガラスの表面にカッタを施すことで生まれるシャープな印象や輝きを、近代の器や現代の切り作品、中国清朝ガラスなどで紹介しました。「生々流転」では、約4500年にも及ぶガラスの歴史の中で誕生した様々な技法から生まれる涼やかさや温もり、溶けたガラスの柔らかさ、重力や遠心力などを感ぜさせる作品を紹介しました。

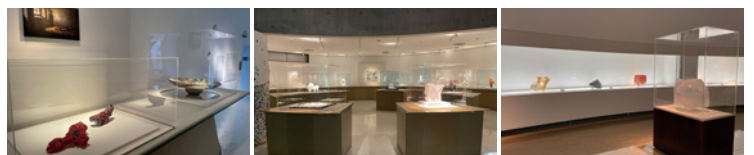


巡回展

国際ガラス展・金沢2022 in 能登島

会期／令和4年11月12日(土)～令和5年2月12日(日)
開館日数／86日間 入館者数／5,716人
主催／石川県能登島ガラス美術館(公益財団法人七尾美術財団)、国際ガラス展・金沢開催委員会
【構成】石川県、金沢市、金沢商工会議所、(公財)石川県デザインセンター

今回で15回目となるガラスの国際公募展。世界37の国と地域からの315点の応募作品から選ばれた、入賞・入選作品53点を紹介しました。独自の手法で新たな造形表現を生み出そうとする若手作家達による意欲的な作品も多く見られ、まさに「世界のガラス・シーンの今を展望する」展覧会となりました。





テーマ展

ものがたりを紡ぐ

会期／令和5年2月18日(土)～6月18日(日)

開館日数／117日間

主催／石川県能登島ガラス美術館(公益財団法人七尾美術財団)

物語には、神話や昔話、童話や寓話、SFなどの空想世界から日常に潜む小さな物語まで、様々なジャンルがあります。文字を持たない時代より、人々は表現の手段として洞窟壁画やレリーフなどに物語を残しました。本展ではガラスを手段とし、モチーフを形作る、あるいは表面に彫刻や絵付けを施すなど、多彩な手法で作品に表現された物語を紹介しています。春休みやゴールデンウィークに向けて、親子で楽しく鑑賞できるように、子ども解説を設置してあります。



主な普及活動報告

●おさんぼクイズラリー

開催日時／令和4年5月3日(火・祝)～5日(木・祝)

各日9:30～15:30

会場／屋外展示広場

参加費／無料 対象／中学生以下 参加者数／173人

七尾湾を望む小高い丘に建つ当館のロケーションを活用した屋外庭園には、現在14点のガラス作品が設置されています。コロナ禍で館内活動が制限されるなか、開放感溢れる5月の青空の下、ご家族で散策しながら作品に関するクイズに挑戦してもらいました。全問正解者各日先着10名にガラスグッズなどをプレゼントしました。



●ランプワーク・デモンストレーション2022

開催日時／令和4年10月15日(土)、16日(日)

各日10:00～16:00(開場時間)

会場／別棟2F 来場者／165人

協力／齊藤秀輝氏、高田範子氏、宮村和美氏

北陸を拠点に活動する作家たちによるランプワークの実演イベントを3年ぶりに開催しました。密にならないよう人数制限や実演時間を設けるなど、感染対策をとりながら、炎を操る巧みな技の数々をご覧いただきました。実演を待つちょっとした時間に、技法やガラスについての質問など作家と見学者が交流する場面も見られました。



●学校団体向け鑑賞プログラム

開催日時／「国際ガラス展・金沢2022 in 能登島」会期中

招待校／①七尾市立能登島小学校3年生

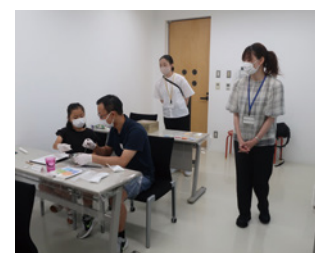
②七尾市立能登香島中学校1・2年生

このプログラムは、地域に根ざした美術館として親しんでもうことを目的として、市内の小中学生を美術館に招待し、展示作品の鑑賞を行うものです。中には初めて来館したという子供達もいました。鑑賞では、事前に展示作品からひとつ好きな作品を見つけるように課題を出し、作品の解説や子供達との会話を通じて、作品への理解が深まるように努めました。



●美術館ボランティア活動

制作ワークショップの事前準備、実演イベントや鑑賞プログラムでのサポートをしていただきました。また、登録者が増えたことで、イベントやワークショップ内容に対する様々な感想、意見を聞くことができました。今後の美術館活動に活かしていきたいと思えます。令和5年度もボランティアを募集します。ガラスに関心のある方はもちろん、美術館活動に関心のある方をお待ちしています。詳しくは美術館HPをご覧ください。



令和4年度 ガラ美の足あと

〔教育・普及〕

●ワークショップ

5月3日(火・祝)～5日(木・祝)

「おさんぼクイズラリー」

参加者数計／173人

7月30日(土)、31日(日)

「パート・ド・ヴェールに挑戦!」

参加者数計／15人

11月20日(日)

「絵本のじかん～絵本で感じる作品世界～」

参加者数／7人

●冬はガラ美でほっこり!セレクトワークショップ

令和4年12月～令和5年2月の毎土・日曜日

参加者数計／158人

(12月12人、1月61人、2月85人)

●リクエストワークショップ

8月27日(土) 1件 参加者数／9人

9月6日(火) 1件 参加者数／43人

9月13日(火) 1件 参加者数／12人

10月7日(金) 1件 参加者数／15人

11月29日(火) 1件 参加者数／17人

12月14日(水) 1件 参加者数／11人

●学校団体鑑賞プログラム

11月29日(火)

七尾市立能登島小学校3年生

参加者数／19人

12月16日(金)

七尾市立能登島中学校1・2年生

参加者数／107人

●出張講座

11月13日(日)

「わいわい能登島ふれあいまつり」

体験コーナー出店

モザイクガラス体験実施

(能登島コミュニティーセンター芝生広場)

参加者数／18人

11月22日(火)

七尾市立能登島小学校3年生

ワークショップ(11/29)事前学習

参加者数／17人

●デモンストレーション

10月15日(土)、16日(日)

「ランプワークデモンストレーション2022」

参加人数計／165人

●ガラ美感謝祭2022

7月30日(土)、31日(日)

入館者にオリジナルはがきセットをプレゼント

配布件数計／426件

7月31日(日)

七尾市民無料デー

対象者／49人

〔収集・保存／調査・研究〕

●作品修復

購入 7点

佐々木類「植物の記憶 / 忘れじの庭」(2022)

JIANG,Guimei「癒しの間」(2021)

井川彩子「HONEYCOMB-GLASS」(2022)

宮下真巳「箱舟」(2019)

大木春奈「R-XV II」(2021)

岡崎彩香「Tender Flower」(2021)

上前功夫「Border / Seed of Moon 12」(2020)

寄託 2点

佐々木雅浩「白日夢#2102」(2021)

佐々木雅浩「白日夢#2112」(2021)

※ともに妖精の森ガラス美術館所蔵

●作品修復 5件

イワタルリ「No.91711」(1991)

磯谷晴弘「朱の保存」(1991)

岩田糸子「胡の舞姫の首飾り」(2008)

横山翔平「空形一ウツカター」(2013)

瀧川嘉子「光航(ひかりが渡る)」(1991)

●所蔵作品撮影 30点

作品修復報告

令和4年度は、5作家5点(うち3点が屋外作品)の作品修復を行いました。屋外作品は設置から30年経過し、修復頻度は、ここ数年で増加傾向にあります。作品修復は、まず作家と確認をとりながら作品の状態調査を行い、修復方法を検討していきます。作業当日、作家が立会えないこともありますが、可能な限り情報を共有しながら作業を進め、無事に完了することができました。



令和5年度の活動によせて

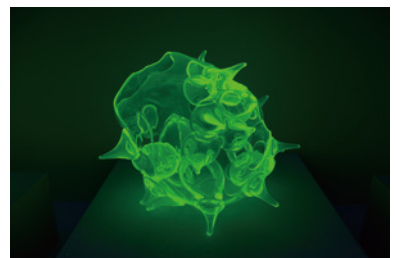
石川県では今年10月に、「いしかわ百万石文化祭2023」が開催されます。当館でもそれに呼応し、ガラスの魅力を活かした展示会を企画し応援していきます。現在開催している「ものがたりを紡ぐ」に続き夏には、国内有数のガラスコレクションを誇る町田市立博物館所蔵の「ガラス名品展」、秋には当美術館30周年を記念しての「30年の軌跡」、冬には、光とガラスの関係性をみつめる「光をまとう」等、館の特性を活かした展示会を開催していきます。風光明媚な景観とあわせてご堪能くだされば幸いです。

観田健治館長



新収蔵品紹介

昨今、作品購入に潤沢な予算がつく…という夢のような話はないでしょう。当館も然り。そんな中、今年度は国際ガラス展・金沢が開催され、出品作品を購入できる喜ばしい年であり、新たに7点がコレクションに加われました。また岡山県鏡野町より妖精の森ガラス美術館が所蔵するウランガラス作品を、寄託として受け入れることもできました。今後の展示会で皆さんご覧いただけます。お楽しみに。



白日夢 #2102 / 佐々木雅浩 / 2021年
撮影: 佐々木雅浩

これからの展覧会（令和5年度事業予定）

特別展

町田市立博物館所蔵 ガラス名品展

会期／令和5年6月24日（土）～9月24日（日）

町田市立博物館が所蔵するガラス作品は、同館コレクションの中核を成しています。本展ではボヘミア、中国、日本の3つのジャンルから、同館ガラスコレクションの一端を紹介します。国内最大級の規模と質を誇るボヘミアン・グラスでは16世紀から20世紀に製作された、繊細なエナメル彩やグラヴィール、カットを施した作品を、中国清朝ガラスでは華やかな彫琢や玉を真似た作品などを、そして日本近代のガラス工芸を代表する岩田藤七や青野武市などの作品を展示します。



双頭の鷲文ファンペン／ボヘミア／1599年

企画展

ガラ美 30年の軌跡 ～コレクションストーリー～

会期／令和5年9月30日（土）～12月10日（日）

当館は、伝統工芸の盛んな石川県において、工芸の新たな分野として期待されたガラス芸術の情報発信基地として旧能登島町により設置され1991年に開館しました。開館時に、中国清朝ガラスと20世紀の巨匠のデザインによるイタリアのガラス造形作品（石川県からの寄託）を収蔵し、その後の収集活動によって現代のガラス造形作品も充実してきました。本展では収蔵品から優品を紹介し、30年に及ぶコレクション形成のあゆみをご覧ください。



飾皿「紅白梅」／藤田喬平／1992年
撮影：岡村喜知郎

特別展

光をまとう

会期／令和5年12月16日（土）～令和6年3月24日（日）

光を透過・反射するガラスで作られる造形は、光を受けることで形や質感などが強調され、その表情を一変させます。また、普段は気に留めない光の存在を意識させるように、触れることができない、あるいは隠れて見えない「なにか」の存在を私達に示してくれます。ガラスと光とが作用し生まれるもの、そこに見えてくる「なにか」の気配を感じとることで、鑑賞者が新たな気づきと思考を得る機会となれば幸いです。



MONOLOGUE／扇田克也／2002年 撮影：吉尾大輔

ガラ美から
車で30分!

石川県七尾美術館で開催される 令和5年度の主な展覧会

長谷川等伯展 ～水墨の美技と、一門の俊英と～
会期／令和5年4月29日（土・祝）～5月28日（日）

第79回現代美術展 七尾展
会期／令和5年6月2日（金）～6月25日（日）

絵師も動物も、人気モノ勢揃い
動物たちの浮世絵展
会期／令和5年7月30日（日）～9月18日（月・祝）

第38回国民文化祭 第23回全国障害者芸術・文化祭
いしかわ百万石文化祭2023 七尾市地域文化発信事業
能登島山氏とゆかりの文化
会期／令和5年9月23日（土・祝）～10月29日（日）

2023イタリア・ボローニャ国際絵本原画展
会期／令和5年11月10日（金）～12月17日（日）

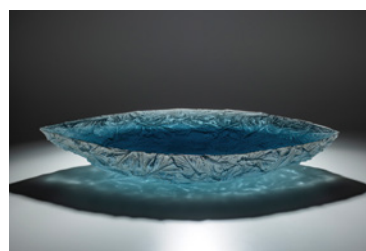
※詳細は石川県七尾美術館HP、またはお問い合わせください。
（TEL：0767-53-1500）

企画展

コネクト

会期／令和6年3月30日（土）～

本展は、作品に込められた作家の想いに繋がるキーワードとともに、当館の現代ガラスコレクションを紹介し、それらを読み解き、作品を見て、感じて、自分だけの答えを見つけながら、ガラスによる多彩な表現をお楽しみください。あわせて、近年収蔵となった作品もお披露目します。

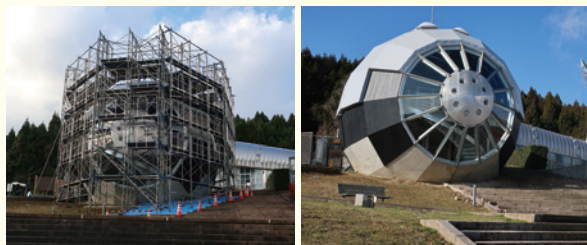


箱舟／宮下真巳／2019年
提供：国際ガラス展・金沢開催委員会

施設修繕報告

◆別棟

美術館入口前の丸い2階建ての建物です。
令和5年3月3日、美術館別棟の外壁・内装の修繕工事が終了しました。張り替えられた屋根部分のシルバーシートが太陽光に照らされ、より一層輝いて見えます。
今後、展覧会関連イベントや教育普及活動のワークショップを行う予定です。皆さまのお越しをお待ちしております！



◆屋外庭園遊歩道

令和5年2月27日、屋外展示広場(洋風庭園)の、くわ止め修繕工事が終了しました。
遊歩道の擬木が崩れて危険だったので、コンクリートのブロックに変更しました。
ゆっくり散歩しながらガラス造形作品や海の景色をご堪能ください。



「ガウ美のおすすめ利用サービス」

●能登島ガラスコレクション 解説シート

当館コレクションからセレクトした作品を詳しく解説したシートです。画像付きで作品解説などが記されており、より深く作品を楽しむことができます。該当作品の展示中には、展示室内で無料配布していますので、鑑賞の記念にご自由にお持ち帰りください。



建築家・毛綱毅曠氏(1941~2001年)の 著書紹介

『都市の遺伝子』

(毛綱毅曠 著、1987年、青土社)

東洋古来の風水思想を反映し、デザインされる「毛綱建築」は、国内外で高い評価を受け、今なお人々を魅了し続けています。本著には、奇才・毛綱氏の建築理論が記されており、毛綱氏ならではの独特な世界を読み解くために欠かせない著書のひとつです。



美術館インフォメーション

◆観覧料

展覧会によって異なります

- *最新の展覧会情報は、当館HPまたはお電話にてお問い合わせください。
- *障害者手帳等をお持ちの方は、本人と付添者1名が無料となりますので受付窓口にてご提示ください。専用アプリの画面表示も適用となります。
- その他、各種割引、減免金額については、直接お問い合わせください。

◆休館日

毎月第3火曜日(祝日の場合はその翌日)

年末年始(12月29日~翌年1月1日)

展示替え 館内整備期間

*展示替え休館日は当館HPや年間スケジュールでご確認ください。

◆開館時間

4月~11月:午前9時~午後5時

12月~3月:午前9時~午後4時30分

*入館は閉館時間の30分前まで。

◆交通案内

自動車

金沢方面から...「のと里山海道」徳田大津JCTから「能越自動車道」七尾方面へ、和倉ICで降り約20分

富山方面から...「能越自動車道」七尾城山ICから和倉温泉方面へ、和倉ICで降り約20分

電車・バス

金沢方面~和倉温泉駅...金沢駅から特急列車で約1時間

富山方面~和倉温泉駅...高岡駅から和倉温泉行きバス「わくライナー」で約1時間45分

和倉温泉駅~美術館...「能登島交通バス「のとしま臨海公園ゆき」」で約30分
「美術館前」下車すぐ

*能登島交通バスご利用の方へ

バス停「美術館前」は乗車と降車の場所が異なりますのでご注意ください。

飛行機

のと里山空港から車で約1時間

各公式SNSでも展覧会などの情報を発信しています。
ぜひフォローをよろしくお祈いします！



HP



Instagram



Twitter



Facebook